

## 経営のヒント194 「空からネコを降らせる」

### ある問題を解決しようと行動したら・・・

ある問題を解決しようと行動したとき、別の問題が起きてしまった。

「よかれと思ってやったけど、でも実は・・・」というところが周辺に数多くある。

1950年代、当時、イギリス領のボルネオでマラリアが流行した。マラリアとは蚊が媒介して感染する病気で、たくさんの方が死亡した。ボルネオ島でそれが流行って困った時、国連の専門機関である世界保健機構 (WHO) は、当時は禁止されていなかった DDT を散布した。DDT は非常に強い化学物質で、マラリアの蚊を撲滅でき、マラリアに感染している人もどんどん減少した。

最終的にマラリアはなくなり「めでたしめでたし」だったが、DDT という薬は、蚊以外にも、小さな生物をみんな殺してしまうほど強力な化学物質である。そのためスズメバチも激減してしまった。

スズメバチが死んだことで、思いもよらないところで大きな問題がボルネオで発生した。

民家の屋根が壊れ始めたのである。

当時のボルネオの民家の屋根は茅葺きで、そこにイモムシと一緒に共生していた。そのイモムシは、それまでスズメバチに食べられていたので、必要以上に増えなかった。

しかし DDT でスズメバチが激減してしまったので、イモムシが大繁殖し、茅葺きの屋根を食べ始めてしまった。そのため、雨漏りが始まり地元の方は困ってしまった。

植民地政府も、それでは困るといふことで、イモムシが食べることができない屋根にしようと、住民にトタンの板を配った。

イモムシはトタンを食べることはできないので、一見すると良い解決策のように見える。

しかし、これも最終的にハッピーエンドにはならなかった。

なぜならボルネオは熱帯気候で、スコールが降る。トタンでスコールを受けるとすごい音がするのだ！

そして、住民は眠れない日々を過ごさなければならなくなった。

さらに別の問題も起こった。

蚊にしてもスズメバチにしても、それを食べていた小動物がいる。例えばヤモリである。小動物は DDT をかけられても死なないが、DDT で死んだ虫を食べることによって、DDT を体内にどんどん蓄積していった。このことを生物濃縮、もしくは生体濃縮と言う。捕食に従い、生物の体の中で化学物質が濃縮されてしまうのだ。

そしてヤモリも死に、ヤモリを食べていたネコが、DDT がたまっていたヤモリをたくさん食べた為、DDT を浴びても平気だったのにバタバタと死に始めた。そしてネコが、とうとう島からいなくなってしまった。

ネコがいなくなって喜ぶのはネズである。

今度はネズミが大繁殖した。

マラリアを媒介する蚊を殺す為に DDT を撒いた結果、ネズミが媒介する別の病原菌が流行りそうになった。植民地政府は本当に困ったようである。

植民地政府は、史上初、軍隊の特別部隊を使って、空から一万匹以上のネコを、パラシュートをつけて撒いたという

これは本当の話らしい。

「ウソ！」と思うかもしれない。

まさかネコを一匹ずつにパラシュートをつけて落下傘降下をさせたのではなかろうが、マラリアをなくすための DDT が、今度は別の病気を引き起こし、ネコを降らせるはめになってしまったのは本当である。

「入門！システム思考」枝廣淳子 + 内藤耕 講談社現代新書より参照

## <経営のヒント>

分析的思考では「解決」にならない。その解決策は、システム思考のアプローチにヒントがある！